

平成22年度霞ヶ浦の水質概況について

平成23年7月27日(水)
生活環境部 環境対策課 水環境室

平成22年度のCODは、全水域平均として8.7mg/Lとなり、21年度(9.5mg/L)より0.8mg/L低くなり、平成20年度と同じ値となった(表1)。

CODの変動は、植物プランクトン量の目安であるクロロフィルと関係しており、植物プランクトンの増殖による影響が大きい(図1)。平成22年度のCODは、4月、8月、9月に10mg/Lと高い値を示したものの、その後1月まで低下傾向が続き、2月、3月はやや増加したが21年度と比べ低い値で推移した(図2)。これは、21年度よりプランクトンの発生量が少なかったためと思われる(図3)。

また、全窒素は21年度に比べやや高くなり、全りんは横ばいであった(表2、3)。

表1 CODの年間平均値 (mg/L)

水域/年度	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
西 浦	7.7	7.3	7.5	7.8	7.6	8.2	8.5	8.4	9.3	8.2
北 浦	8.5	7.8	7.7	8.3	7.7	8.4	9.5	9.3	10	9.1
常陸利根川	8.2	7.8	7.2	7.7	7.4	8.1	8.8	8.7	9.3	9.2
全水域平均	8.0	7.5	7.5	7.9	7.6	8.2	8.8	8.7	9.5	8.7

表2 全窒素の年間平均値 (mg/L)

水域/年度	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
西 浦	0.89	0.96	0.95	1.2	1.1	0.99	1.1	1.4	1.2	1.3
北 浦	0.88	0.86	0.88	1.5	1.1	0.93	1.2	1.3	1.2	1.6
常陸利根川	0.87	0.97	0.84	0.92	1.0	0.83	1.1	1.2	0.96	1.1
全水域平均	0.88	0.93	0.91	1.2	1.1	0.93	1.1	1.3	1.1	1.3

表3 全りんの年間平均値 (mg/L)

水域/年度	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
西 浦	0.11	0.12	0.11	0.10	0.11	0.10	0.10	0.11	0.099	0.090
北 浦	0.10	0.095	0.099	0.13	0.092	0.11	0.13	0.16	0.12	0.13
常陸利根川	0.086	0.087	0.083	0.088	0.093	0.096	0.11	0.12	0.096	0.10
全水域平均	0.10	0.11	0.10	0.10	0.10	0.10	0.11	0.12	0.10	0.10

湖内水質の変化

図1 霞ヶ浦におけるクロロフィルとCODの変化

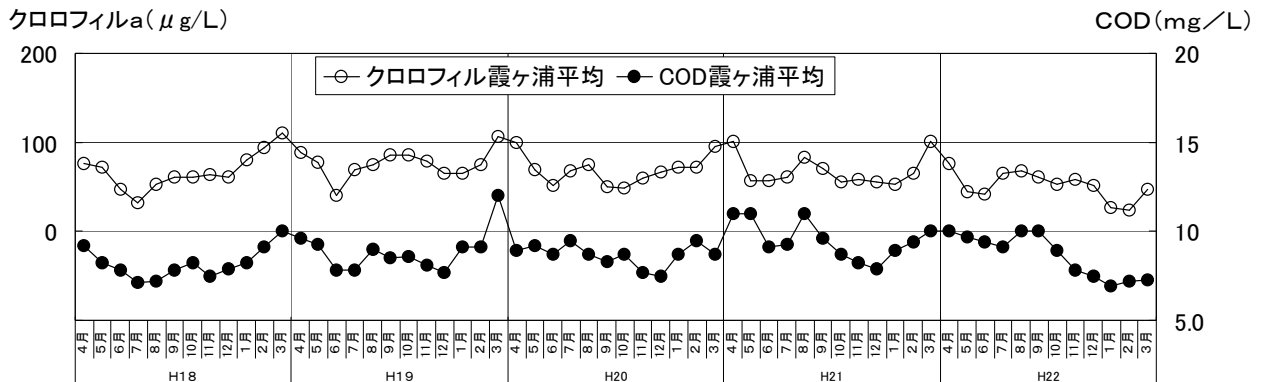


図2 霞ヶ浦のCODの経月変化

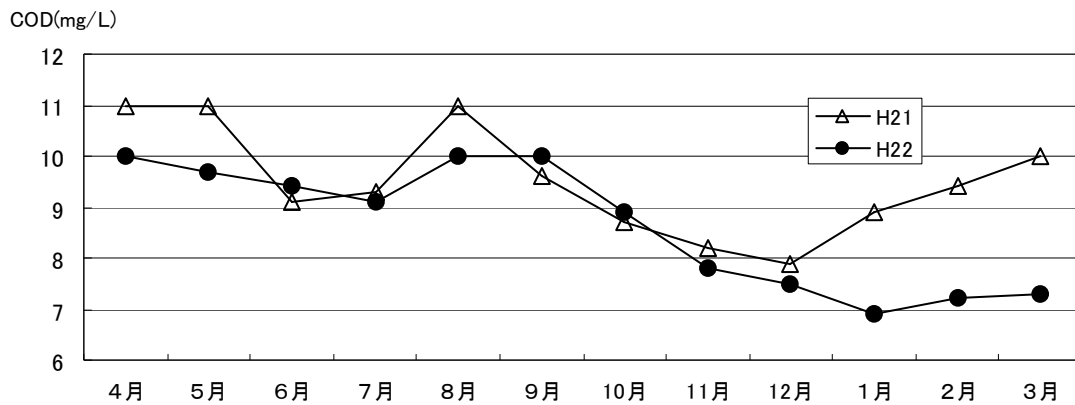
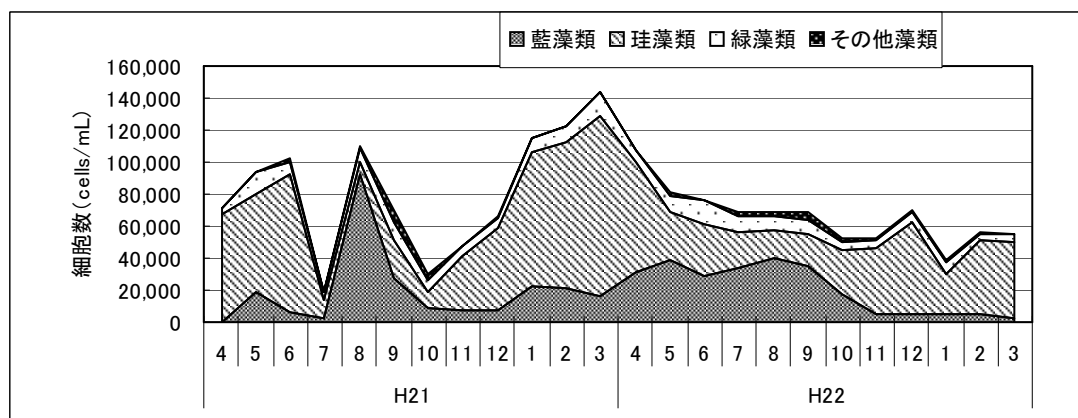


図3 霞ヶ浦（湖心）における植物プランクトンの発生状況



出典：国土交通省霞ヶ浦河川事務所データ